

松葉屋

通

信

matubaya
-tushin
vol.04
2004.12.31

発行 ■ 松葉屋家具店
026-232-2346



「オープンはいつですか。まだですか。」とたくさんの方にお問合せいただきました。「パンカフェ」。おかげさまで、ようやくニューアルオープンへと漕ぎ着けることができました。本当に長い間お待たせしてしまいました。

リニューアルとはいえ、さまざまな準備は予想以上に大変でしたが、たくさんの方々にお力を借りしながら、背中の赤ちゃんとともにがんばることができました。ありがとうございました。

パンカフェは、おちついた雰囲気の中でときめくようなおいしいものを召し上がっていただける空間にしたいと思っています。百年前から変わらぬ天井の梁、柱。そしてこの度、大正時代のガラスのショウケースも加わりました。（権堂の骨董店「壺中」さんで一目惚れしたものです）「ケーキを宝石のように陳列してみたい」と思っていた私のところへやってくれました。ここに、ゆっくりとコーヒーを召し上がるお客様がいらして、ようやくパンカフェの景色となります。みなさまとお会いできることを楽しみにしております。

松葉屋家具店 「パンカフェ」 滝澤佳子



お菓子のコト

ずっとファンで通っていた、昭和通りにあるタルト専門店エスキスさん。（ペパーミントグリーンの扉が目印）今回からはこちらのタルトがお目見えです。この冬選ばれたのは、チェリーとカシス・ナッツ・いちじくの3種類。いずれもしっかりしたベイクドでシンプルで美しい見た目と、それ以上のおいしさで、食べるたびにしあわせになります。深いコーヒーといっしょに、ぜひ、食べてみてください。

コーヒーのコト

パン-カフェのメインは、何といっても「おいしいコーヒー」。

「深い苦味があって、すっきりした味のコーヒー。すっぱいのはいやだ。」という、わがままを聞き入れてくださったのは、軽井沢の老舗「丸山コーヒー」のご主人丸山さん。コーヒーをいれる時もピリリとした気持ちのよい空気が漂います。また、おいしいコーヒーを求めて世界のどこへでも出掛けてしまうパワフルな人でもあります。

丸山さんのコーヒーについては、また別の機会を作ってご紹介できたら。と思っていますのでお楽しみに。

（パン-カフェのコーヒー豆をご希望の方はスタッフまでお問合せください。）

うつわのコト

いれたてのコーヒーは、前号でご紹介しました静岡の作家「吉田直嗣」のカップでお楽しみください。

コーヒーを注ぐことでより一層引き締まるグレイの質感。火の色を感じることのできる深みのある灰色です。しかも、うす作りで口当たりの良いところもポイント。

吉田さんの器は、新年から1階の「ななつ道具」にて展示会をしています。カフェとあわせてお立ち寄りください。

パン-カフェ（松葉屋家具店 2F）

〒380-0841
長野市大門町45
Tel.026-232-2346 Fax.026-237-4558
am 11:00→pm 6:00.Lo 金・土・日・祝営業



今回は池田町に新居を構えた日妻さまです。

眺めも、空気もよい、あたたかな日差しが心地よい場所。キッチンもとても開放的で本当に明るく、一日中、みんなが集まる場所になりそうです。

このキッチンは、引き出し式の収納を多用していることが特徴的、引き出しの高さはお手持ちのお鍋や調理器具などにより決めますが、うまく納まるかどうか、いつもドキドキします。

前回は工務店さんにおまかせした設備関係も、今回は松葉屋で手配しました。ひとつずつ、松葉屋キッチンが増えていくこと、本当に嬉しく思っています。



matubaya
kitchen
with
nanatu dougu

おもわず両手のひらでくるみたくなる
白い急須 ¥7,350（税込）

テーブルに置いてしょうゆや酢
をいれておくのにちょうどいい
汁次 ¥4,725（税込）



ななつ道具にまた一人、あたらしい作家が
加わりました。
神奈川県在住の田谷直子さんです。
白や焼きしめの、実用的な急須を得意とし
ます。
ほんのりとまるいかたち。
手のひらにのせていると、生きもののような温かみを感じられます。
生きもののように

秋篠の森

〒631-0012 奈良市中山町1534

食の円居 なず菜 0742-52-8560

ざっか 月草 0742-47-4460

Hotel ノラ・ラスール 0742-47-4460
(予約専用 FAX)



shop
portrait

<http://www.kuruminoki.co.jp>



秋篠の森
akisino no mori

夏にオープンした「秋篠の森」(奈良市)にて
テーブルなどを納品させていただきました。

皆様には「くるみの木」としてご存じの方も多いのでは、と思います。奈良市の秋篠川ほとりの一軒家です。建物の設計は「住宅建築家」として有名な中村好文さん。風のさわさわが、ほどよく聞こえる空間です。

こちらでは、和の食材や大和のお野菜を中心とした創作料理を味わうことができるほか、雑貨店と、2室だけの、ちいさなホテルが併設されています。

本当に心地よい空間。奈良・京都方面にお出掛けの際は是非、おすすめのスポットです。

松葉屋家具店

〒380-0841 長野市大門町45

TEL026-232-2346

FAX026-237-4558

(木曜定休)

© 松葉屋家具店 + 道具学研究所 2004
All rights of copy in this paper are reserved.

Design * kai-pan

Matubaya

Book

Shelf

select • 4

橋本治 著

はじめ著者は「受験生用のわかりやすい文学史」を書きたかったのだそうです。「おもしろいテキストがないから、こんなつまらないテキストしかなかつたら、みんな古典が嫌いになつちゃうな」ということで、これまで桃尻語訳枕草子を著してきました橋本治が立上りました。古典だって現代語だって、いろいろなことを感じ取れる感性がないと理解できない。古典を書いた人は、当時の現代人なんです。今どきと、そう変わるものじゃないのです。
私たちが何気なく使っている言葉、さらに、しぐさや行動までも、古から続いていた事実に驚きと納得の一冊です。

これで古典がよくわかる
筑摩書房(ちくま文庫)